

協働のまちづくりを目指して まちづくりシンポジウムを実施

地方分権推進一括法の施行に伴い、地方自治の自立と住民が主権者として自主的な活動を行うことを目指した地方分権の時代を迎え、住民と行政が信頼と理解のもとにパートナーシップを築き、地域の公共的課題の解決に向けて共に考え、協力していくことが今、求められています。

これまでの協働のまちづくりに向けた動き

町では、住民と行政の協働によるまちづくり推進計画を作成するため、学識経験者、NPO等市民活動団体関係者や公募で選ばれた方などで組織された「住民参加・協働のまちづくり委員会」を昨年7月に設置しました。協働を促進していくためにはどのような環境が必要になるのか、それをどのように整備していくのかなどについて、包括的に検討を進めてきました。そして、今年3月にはそれ

らまとめた「協働のまちづくり推進計画」の素案を公表し、町民からの意見募集を行いました。

まちづくりシンポジウムを開催

本町では、住民と行政が協力し合える環境「顔の見える

まちづくり」に向け、住民参加・協働のまちづくり委員会で「協働のまちづくり推進計画」の策定に取り組んできましたが、その一環として3月1日、保健文化センターでまちづくりシンポジウムを開催しました。

会場には、町民をはじめ、

地元企業者、役員職員など約130人が参加。堀内町長はこの席上で、「誰もが住みやすいまちづくりが重要である。住民と行政が意見を出し合い、融和のとれたまちづくりを目指したい」と語りました。

掘し、知ることが大切」と熱弁。最後には、「住民は自分なりの入口となるきっかけを見つけて、勇気を出して一歩を踏み出し、出会い、つながり、働き掛けて協力関係を見出してほしい」と語りました。

これからの動き

今後は、協働のまちづくり推進計画を基に、各個別施策の実現に向け、取り組んでいきます。また、町民の皆さんの知恵と力を生かしたまちづくりを推進するため、「まちづくりと住民協働」と題し、全6回のオープン講座を開催する予定です。

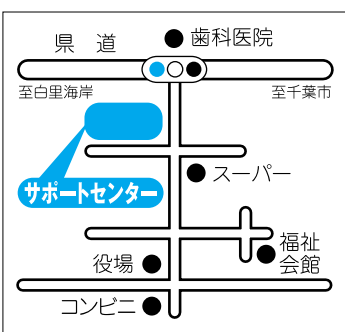
問 企画政策課政策推進班
☎(70)0315



大網白里まちづくりサポートセンターがオープン!

社会的貢献活動を行う方の情報交換や活動の連携を図ることのできる拠点として、住民が主体となった「大網白里まちづくりサポートセンター」が設立されました。

開設時間 9時～21時
活動内容 まちづくりの人材育成、交流事業、相談事業
情報の収集・発信
4月4日(土)10時からオープン
4月4日(土)10時からオープン
問 大網白里まちづくりサポートセンター
☎(72)8278



歯っぴーライフ 84

子どもの指しゃぶり

一言に「指しゃぶり」といっても子どもの年齢やしゃぶり方、しゃぶる回数などにより、対応方法が変わります。子ども自身が指しゃぶりを止める準備ができていない状況で無理に止めさせると、代償行為(爪かみ、夜尿など)ができる場合もあります。

したがって無理に止めさせる方法をとったり、親が口うるさく注意したりするのは避けるほうがよいでしょう。むしろ、子どもが集中できることを見つけ、外遊びや運動を多くし、エネルギーを十分に発散させ、指をしゃぶらない環境をつくりましょう。スキンシップを図るため、昼寝や夜寝付までの間は、子どもの手を握ったり、絵本を読んだりして安心させてあげることが大切です。また指しゃぶりを続けることのような影響があるか、指しゃぶりを止めるとどんないいことがあるかを話して、止める気がでてるまで見守ってください。

指しゃぶりをなくすためには、ご家族の方のやさしい励ましや支援が必要になります。

指しゃぶりの影響は?
<新生児>
 母乳を吸うための本能的・反射的な行動です。また乳児の指しゃぶりは、手と口の協調運動であり、お口の発達には欠かせないトレーニングです。赤ちゃんの不安な気持ちを落ち着かせる役割もあるため、幼児期前期までの指しゃぶりは生理的なものとしてとらえ、問題視する必要はありません。

<3歳児以上の子ども>
 指しゃぶりを卒業してもよい時期と考えてよいでしょう。しゃぶり方やその程度にもよりますが、歯並びや噛み合わせなどに影響が表れます。放っておくと口元や、発音にも影響が表れることがあります。それらの影響が残る前に指しゃぶりをなくしたいものです。

問 健康介護課健康指導班 ☎(72)8321

栄養士だより 82

朝食を食べていますか?

ライフスタイルの変化により朝食を食べない人が増加しています(国民健康・栄養調査結果)。食べない理由としては、食べたくない、時間がない等が考えられますが、朝食を抜くと、栄養補給がされない時間がかなり長くなります。

脳が働くためのエネルギー源はブドウ糖で、朝食はとても重要です。バランスの良い食事を心掛けましょう。

きちんと食べれば脳に栄養が行き渡り、仕事や勉強に集中できるようになるほか、体温が上昇して胃や腸も動き出すため、体も目覚めていきます。便秘や大腸がんなどの予防にもつながります。

4月から新生活を始める方も多いことでしょう。朝食の必要性を再確認し、1日を元よく始められるよう、習慣付けましょう。

食べたくないという人は
 夜更かしや夜食のとり方に問題があることもあります。早めの就寝を心掛け、夜遅く食事をとるときは油を使っていないメニューをとるようにし、朝食がおいしく食べられるよう工夫してみましょう。

なお、朝食を抜くことが習慣化している方は、慢性的な栄養不足が心配されます。ご注意ください。

時間がないという人は
 簡単に食べられるものを夜のうちに用意しておくか、すぐに食べられる食品を買い置きしておくのもよいでしょう(チーズ、バナナ、プチトマト、インスタントのみそ汁やスープ類、缶詰など)。

問 健康介護課健康指導班 ☎(72)8321